

## ご あ い さ つ

名誉会長 原田 市太郎

1. 「水草同好会」として発足、「水草研究会」と改称し、すでに10年。会員も増え、学会の形をとって発展しております。会報は32号に達しました。

同慶のいかりに存じます。

2. 会則には「本会は水草に関する研究及び知識の普及と会員相互の親睦をはかることを目的とする」と、うたっています。(学会などの常套文言ですが)
3. 自然も人間営為も、万事万般うつろい変わるもの。されども「水草を楽しむ」という気風は大切にしたいもの。

本格的な研究論稿や学術記事が多くなることは、当会の深化・発展のために、もとより不可欠なこと。

以上相まって進むことが望ましいと思います。

「初心忘るべからず、そして展新を！」

4. 会員皆様方のご協力による10年間であります。大滝会長、角野事務局長をはじめ、多くの事務関係の方々の献身的なご努力に、感謝申し上げます。さらに、財政的に格別なご援助を賜りました多くの方々のご芳志に、厚く御礼申し上げます。

1988 (昭63) 年 8 月 6 日

## 水草研究会10周年に想う

会長 大滝 末男

「水草とはなにか」と改めて再検討しなければならぬ時期がきている昨今であるが、水草研究会が2年間の準備期間を経て、1979 (昭和54) 年 8 月 19 日に、東京都立井の頭自然文化園の資料館で、産声をあげてから、はやことしは10年目に当たります。

本会が線香花火に終ることなく、このたび第10回全国集會を、東京都立神代植物園の植物会館で、盛大に開催できましたことは、私にとって感慨無量のものがあります。本会は、元北大教授の原田市太郎先生と大滝の二人が核となって、当初は水草同好会として、原田会長のもとにスタートしました。

第2回全国集會は、1980 (昭和55) 年 8 月 9 日、大阪市立自然史博物館で開催しましたが、1980年4月から原田先生は、琉球大学へご転勤なされた関係で、私に会長を譲られました。私は無能を省みずお引き受けいたしました。そのとき名称を水草研究会と改め、同時に副会長・幹事その他の役員も総会で承認されました。特に会報の編集部を神戸大学教養部の角野康郎先生に委嘱して再出発しました。さて、今回の第10回全国集會は、一つの節目に当たるので、本会の経過について、つぎに簡単に述べてみたいと思います。

私が会長を引き受けた当時の会員数は、約100名で、その職業は教員・学生・会社員・官公庁の職員・医師・

および主婦などまちまちでしたが、主流は教育関係者で、これは現在も大きな違いがないようです。その後、会員の入退会者はありましたが、漸次増加し現在の会員数は250名以上に達し、年4回の会報も順調に発行されていることは、まことに同慶に絶えません。

会員の居住区は、東北・北海道(22)、関東(88)、中部(41)、近畿(51)、中国(21)、四国(13)、九州・沖縄(12)で、日本全域に広がっています。なお、いままでに会員名簿を3回発行していますが、あとの2回は東京の会員で、M女史のご支援によることを付記いたします。

会報は、1988年7月現在で32号を数えています。サイズはB5版、1頁2100字(25×42×2)詰で、表紙・図・グラフ・表なども含めて、総計554頁に及んでいます。

ここで30号までについて触れますと、1～10号は合計130頁、11～20号及び21～30号の合計は、それぞれ200頁ずつほどで、内容はややアカデミック的要素が強いのですが、たいへん好評を博しているようです。特に水草に関する文献その他も含まれ、頗る多岐にわたり、概ね初期の目的が達成されているものと考えています。

人間一人の能力や体力、そして時間には限界があるわけですが、水草の生態調査を始めて30余年、私自身毎号の会報が待ち遠しいのが実情です。